

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	ファイバー工学分野の技術者・研究者育成を目指した 日中韓大学院生研修プログラム	
学部・研究科名	繊維学部・大学院総合理工学研究科・総合工学系研究科(上田キャンパス)	
実施期間	2016年9月25日～10月2日	
研修先(国・都市・施設名)	韓国(ソウル、ピョンチャン)	
参加者数：12名		知の森基金からの支援者：7名
プログラム概要	本プログラムは、ファイバー工学分野における日本・韓国・中国の大学院生の交流の場を設け、学生達に国際的な感覚を身につけさせ、将来、国際的に活躍できる技術者・研究者を養成することを目的とする。 このプログラムは、平成19年より日本・韓国の2か国間で開始し、平成23年より中国が加わり3か国の持ち回りで毎年開催しており、今回は韓国開催となった。 大学の夏季休暇を利用し、研究発表及び討論会を中心に実施する。シンポジウムの公用語は英語とし、これからのグローバル社会に向けて重要となる英語によるプレゼンテーションとコミュニケーション能力の向上を図るとともに、自身の研究や最近の研究動向に対する知識を深めることも目指す。また、大学教員による先端的研究の講演、現地繊維関連企業の見学及びエンジニアによる講義、3国学生間のグループワーク、さらに開催地である韓国特有の文化も体験する。	

実施状況・成果

第8回International Symposium on High-Tech Fiber Engineering for Young Researcherが、2016年9月26日(月)～10月2日(水)に、韓国ソウル大学のグリーンバイオ先端研究団地(ピョンチャンキャンパス)にて開催された。

今回のシンポジウムでは口頭発表およびポスター発表において、様々な機能性を持つナノファイバーやナノ粒子の作製に関する研究から、キャパシタ用電極、抗菌技術、光学技術および再生医療用材料への応用に関する研究など多岐にわたる研究発表が行われた。また、オープニングセレモニーでは、記念品の交換や各教授による大学紹介、また、若手研究者同士の活発な意見交換などが行われ、繊維・ファイバー工学分野における三力国の研究動向や展望を確認することができた。さらにコーディネーター教員により、ファイバー工学分野の最新の研究動向や課題に関する話題提供の場が設けられ、学生たちは、自身の研究の位置づけや目指す方向性を認識するとともに、国際的に意見発信していくコミュニケーション能力を高める意識付けを可能にした。また、英語を標準語とすることで、国際的立場で交流を図る経験も得ることができた。

また、ピョンチャンキャンパスでは施設見学も行った。このグリーンバイオ先端研究団地は2014年に一部完成した新しいキャンパスであり、現在も工事が進められている。学生たちは、研究室の最先端装置や技術を見学した。

主催者側が開催した食事会では、国籍の壁を超えて、学生たちはそれぞれの国の文化や社会などについて議論した。さまざまな国籍の学生が交流することで、他国間でのコミュニケーションや人脈形成に繋がりを、将来的にグローバル規模で活躍する人材を育成するきっかけになった。

参加学生は、本プログラムの研究発表を通じて、英語でのプレゼンテーションならびにコミュニケーション能力を向上させた。さらに、観光および現地での生活で、異文化への理解を深めたことで、学生たちの今後の人生の視野が広がったのではないだろうか。本学会を通じて将来的に国際社会で活躍できる技術者・研究者になるための貴重な経験ができたかと評価している。

学生の声①ー理工工学系研究科 学生

I am very honor to attend the annual JCK(Japan China Korea) symposium of 8th International Symposium on High-Tech Fiber Engineering for Young Researcher in Seoul, Korea. The conference was held by Institutes of Green Bioscience and technology, Seoul National University Pyeongchang Campus and participants included 10 professors and 30 younger researchers totally 40 people.

I was clearly remembered the Korean enthusiasm from the first day. We live in the guest room with other five people who are from different university such as Donghua university, Soochow university, and Jiangnan university. We discussed not only about research work but also hometown culture and customs. Although I am Chinese, unfortunately I was also not known about many habits in china such as drinking.

We exchange the souvenir each other and I receive the Chinese traditional papercuts snacks and so on. The Prof. Dong Soo Hwang gave us very active opening ceremony speech and the 8th JCK symposium was beginning. The session continued with the oral presentations from younger researchers and students and we exchanged the opinions related to the research, and share the current and advanced development in separated fields such as medical, membrane and chemical applications. Besides, we are so luck that the professor address our research and give us too much beneficial advice. It is very useful for us to pursuit more advanced research.

Except the academic acquisitions, I also have a wonderful experience about Korea places of interests. This is my first time went to Korea and I visit the Gyeongbokgung and War Memorial and shopping street of Myeong-Dong. Besides that I was also enjoy the various of delicious cooking of Korea. From this symposium I have learned we need hard-working to obtain excellent research and language is very important to make a great communication and relationship. I am also very grateful for acknowledge financial support from ShinShu University and Chinomori Kikin scholarship.

学生の声②ー繊維学部 学生

9月26日～10月2日に韓国のソウル大学のグリーンバイオ研究団地(ピョンチャンキャンパス)で日中韓大学院シンポジウムが行われた。日中韓の3か国から6大学が参加し、それぞれの研究について口頭発表やポスター発表を行った。初日は口頭発表が行われた。信州大学からは3名が口頭発表を行った。質疑応答の時間では教授だけでなく学生からの質問も多く研究内容について理解を深めることができた。2日目はポスター発表が行われた。信州大学からは5名ポスター発表を行った。ポスター発表では他大学の研究をじっくり見ることができた、その場で質問し意見交換ができた。

また、今回のシンポジウムでは研究発表の他に国際交流にも力を入れていた。学会期間中、食事や宴会を通じて徐々に親睦を深め、写真を撮り合い、連絡先の交換をした学生も見受けられた。ここでの言語は英語であったため、英語の重要性を認識すると共に学習意欲が湧いた。

5日目は信州大学のHoik Lee先生の案内でハニャン大学のキャンパス見学を行った。ハニャン大学は整った設備のもとで研究が行われていた。そして昼食を学食で食べ、ハニャン大学の雰囲気を感じることができた。

それから最終日まで自由時間が与えられソウル市内を観光した。韓国独特の食文化、思想、歴史などに触れ、韓国文化を感じられた。本シンポジウムを開催したことにより、各個人および日中韓の友好に大きく寄与したのではないかと考えられる。

visit the Korea places of interest



金研究室ピョンチャンキャンパスにて

